



▲登別市市民自治推進委員会の全体会議



▲カント・レラで行われた縄の模様あそび



▲サイパン市長とのウエルカムパーティー



▲サイパン市の子どもたち



▲デンマークと友好都市協定書を締結



▲大雨災害実働訓練

温泉中学校の施設を活用し、市内で発掘した埋蔵文化財の展示や保管、市民作品の展示、体験学習の場、市民サークル活動などの施設として、6月1日にオープンしました。

施設の愛称は、市民から募集し131件の応募の中から、山本^{やまもと}絢子^{あゆこ}さん（当時小学生）の『カント・レラ』（当時小学生）の『カント・レラ』が選ばれました。カント・レラはアイヌ語でカントは天空・レラは風という意味で、山本さんは「小高い丘の上に立つ天に近い場所から、文化の風が登別のまちに降り注ぐことを祈って考えました」と語っていました。

この施設では、まが玉づくりや縄の模様あそび、縄文土器づくりなどの縄文文化体験学習の事業のほか、絵画や書道、魚拓などの作品展示、観光ボランティアガイド会やスポーツ少年団の研修など、多くの方がこの施設を利用しています。

今後は、この施設で行う事業の指導者やボランティアの確保に努め、さらなる事業の充実を図ることにしています。

サイパンの市長と子どもたちが来日

平成18年11月に『友好都市提携同意書』を締結したサイパン市のトゥデラ市長が、6月26日から28日まで登別市を訪れました。

トゥデラ市長は、具体的な登別市との交流を進めるために訪れたもので、北海道遺産の登別温泉地獄谷や天然温泉の足湯、テーマパークなどを視察し、初めて見る大きなヒグマには大変驚いていました。

また、この訪問を受けて、2月1日から6日までサイパン市の中学生11人が交流に訪れ、初めて見る雪に感激し、ふおれすと鉦山やサンライバスキー場のそり遊びでは、大喜

びしていました。

デンマークと友好都市協定書の調印

平成9年に登別市と『友好の絆』を締結したデンマークのリンゲ市とウイスリンゲ市が、昨年1月近隣のまちと合併して『ファボー・ミッドフュン市』となったため、新たに新市と『友好都市協定書』を締結しました。

この協定書の調印は、平成8年にデンマークとの交流を契機に設立した『登別デンマーク協会』の10周年事業として、市長を含む会員27人がデンマークへ親善訪問し、ファボー・ミッドフュン市にあるステンスゴーズ城で、6月10日に行われました。

協定書の締結により、これまでの交流団体などへの支援に加えて、市民交流や文化交流の推進を誓い合いました。

防災マップを活用した訓練を実施

登別市は、過去に大雨による大きな被害を幾度となく受けています。そのため、市内で起こり得る洪水や津波の浸水区域、土砂災害の区域のほか、避難所や医療機関などを掲載した防災マップを作成し、市民の皆さんに配布しました。この防災マップを活用し、来馬川の氾濫を想定した大雨災害実働訓練を登別市防災会議の主催で10月2日に行いました。

参加した市民は、サイレン遠隔吹鳴装置などによる避難勧告を合図に、避難所までの経路を市職員の誘導で実際に歩いて検証したほか、消防団などの防災関係機関による土のう積みなどの訓練が行われ、訓練終了後には炊き出し訓練で作った豚汁とおにぎりを試食しながら、訓練の反省をしていました。